

1. 学校の形態 デメリットの解消策

	教育の質(児童数)			通 学			地域とのつながり			総括的評価	
	メリット	デメリット	デメリットの解消策	メリット	デメリット	デメリットの解消策	メリット	デメリット	デメリットの解消策		
(1)現 状	【教育環境・行事】 ◆さめ細やかな教育の実現 【人間関係】 ◆一人一人の活躍の機会が多い	【教育環境・行事】 ◆10人未満の学年の出現 ↓ 多様な意見や考えが出づらい ◆中学校は村費教員が多い ◆川上村と兼務(図工・技術) ◆現状の運動会や音楽会の継続が困難 【人間関係】 ◆人間関係が狭く、固定化し易い ◆中1ギャップ ◆大人の手が入り過ぎて自律しづらい	【教育環境・行事】 ・複式学級 ・合同で授業や行事を行う ・村内外の学校との交流 ・教員間の連携 小→中へ ・連学年での活動 【人間関係】 ・小・小の連携 ・地域・連学年での活動 ・小・中相互乗り入れ(村費教員) ・南小との交流増	【教育環境・行事】 ◆徒歩通学orスクールバス通学で30分以内の登下校	【教育環境・行事】 ◆3校あるため、スクールバスが制約した運行 ◆スクールバス通学のため課外活動に支障を期す(始業前・放課後の活動) ◆学校から遠い集落の配慮ができてにくい	【教育環境・行事】	【地 域】 ◆地域の近くに学校がある ↓ 地域の中心となる存在 ↓ 地域の寄りどころ	【地 域】 ◆各学校ごとに地域とのつながりに格差がある ◆各学校ごとに地域へのアプローチ必要 ◆それぞれの学校にコミュニティースクールがあり、横のつながりが薄い ◆小学校では地域との関わりが持てたが、中学校との関わり減少	【地 域】 ・良い部分を取り入れていく	A	2
(2)小学校のみ統合	【教育環境・行事】 ◆さめ細やかな教育の実現 ◆10人以上の学年の出現 ◆教科担任制の導入 【人間関係】 ◆一人一人の活躍の機会が多い	【教育環境・行事】 ◆小中連携がしづらい ◆現状の運動会や音楽会の継続が困難 ◆中学校は村費教員が多い ◆川上村と兼務(図工・技術) 【人間関係】 ◆人間関係が狭く、固定化し易い ◆中1ギャップ(★1) ・高1クライシスもある	【教育環境・行事】 ・活気がなくなる工夫 ・村で教員を探すのは大変 【人間関係】 ・良好な人間関係を築くことができる社会人になるために、周囲の大人が生き生きとした姿を見せ、憧れの大人へ	【教育環境・行事】 ◆スクールバスによる安全な通学確保	【教育環境・行事】 ◆長い通学時間 ◆通学範囲の広域化 ◆スクールバス通学のため課外活動に支障を期す(始業前・放課後の活動) ◆小中別の運行ルート	【教育環境・行事】 ・南相木のようなバス運営 ・佐久穂もバス増便 ・自宅以外の場所でも乗降できる ・ボランティア添乗 ・停車場を増やす	【地 域】 ◆学校区の広域化 ↓ 関わってもらえ地域の方が増加	【地 域】 ◆地域から学校がなくなる ↓ 地域の中心的役割 消滅 ↓ 地域の関わり少なくなる ◆小学校では地域との関わりが持てたが、中学校との関わり減少	【地 域】 ・住民が使える複合型施設 ・地域の人を先生に習字や地域探検	A	1
										B	27
										C	2
(3)小・中学校統合	【教育環境・行事】 ◆柔軟性を意識した小中一貫教育の実現 ◆さめ細やかな教育の実現 ◆9年間を通した継続的な児童・生徒への指導 ◆義務教育学校の教育の特例(★2) ◆学年段階区切りを6-3制以外に変更可能 ◆子供に関わる教職員が増える ◆小中兼務できる教科担任制の導入 【成長・発達】 ◆異学年交流による精神的な発達 ◆多様性を受け入れることが容易 【人間関係】 ◆中1ギャップの緩和	【人間関係】 ◆人間関係が9年間固定化し易い ◆小1と中3では差があり、交流に課題 ◆低学年の児童が委縮する可能性 ◆中学生の非行による小学生への悪影響の恐れ ・高校ギャップ 【成長・発達】 ◆小学校卒業の達成感がない ◆中学校の新鮮さがない ◆リーダーシップや自主性を養う機会が減る	【人間関係】 ・現状よりもよい ・縦割り班活動 ・メリットの方が多い ・コミュニケーションの幅が広がる(グループを作る) ・先進地に学ぶ ・いろいろな委員会を作る ・グループ活動 ・村民が利用できれば、人の目がある ・ITや英語等特化した学校にする 【成長・発達】 ・建物の工夫によって気分を一新する ・区切りは必要 ・7年生からは制服 【人間関係】 先生方への手厚い配慮も同時に考えてもらいたい(住宅や手当等)	【教育環境・行事】 ◆スクールバスによる安全な通学確保 ◆スクールバス増車による細やかな通学手段の確保 ◆小中学生が一緒に登校	【教育環境・行事】 ◆長い通学時間 ◆通学範囲の広域化 ◆スクールバス通学のため課外活動に支障を期す(始業前・放課後の活動) ◆学校から遠い集落の配慮ができてにくい	【教育環境・行事】 ・バスの本数を増やす ・小中学生が一緒に乗車 ・トイレ付 ・保護者も安心 ・直通 ・予算をつける 業者委託 ・みんなが使えるバス ・コミュニティバス ・学校の中に給食センター ・ボランティアの付き添い ・停車場の見直し ・距離を上回る魅力	【地 域】 ◆学校区の広域化 ↓ 関わってもらえ地域の方が上記(2)よりさらに増加 ◆小中ひとつになることで集団が大きくなる ↓ 地域との関わり・経験ともに幅が広がる	【地 域】 ◆地域から学校がなくなる ↓ 地域の中心的役割 消滅 ↓ 地域の関わり少なくなる	【地 域】 ・村の人が利用できる共有スペース ・村の人が誰でも乗れるバス ・中学生・子どもの声をしっかり聞く ・地域の人を先生に習字や地域探検 ・廃校を活用する ・中学生・高校生の勉強の場図書館等	A	26
										B	4
										C	0

★1…中1ギャップとは、小学校を卒業し中学校へ進学した際にこれまでの小学校生活とは違う新しい学校環境や生活スタイルになじめず、授業についていけなくなったり、不登校やいじめが起こったりする現象。

★2…義務教育学校では、9年間で1つの「学びの場」と考えるため、指導内容や基準をかえることはできませんが、子供たちの実態や理解の程度、9年間の指導内容の系統性を考えて、小中共通の教科を柔軟に捉え、実践することが特例として認められています。

2. 場所をどこにするか
ビジョン

地域みんなで育てる・大人も学ぶ「共学び・共育ちの村」



	安 全 性		経 費	教 育 環 境		通 学 時 間
	メリット	デメリット		メリット	デメリット	
(1)南小学校敷地	◆自然災害に強い	◆不審者の声掛け、学校敷地への侵入 ◆地域住民との関わりが少ない	◆造成費用不要	◆平坦で広い学校敷地 ◆八ヶ岳を望む雄大なロケーション ◆徒歩通学する児童が多い ◆屋内スケート場が近い ◆統合までの時間が短縮できる	◆教職員・佐久市から通勤困難 ↓ 20代の若い先生になりがち ◆駅・村役場・郵便局が遠い ◆厳しい自然環境 濃霧・落雷・暴風と埃 ◆冬期間、校庭が使用できない ◆堆肥の臭い・野菜防除の飛散 ◆地域部活動へ連携しにくい	南小⇄平沢 8.0* 12分 ⇄野辺山駅 1.6* 3分 ⇄板橋 1.4* 3分 ⇄市場 4.3* 7分 ⇄広瀬 6.7* 11分 ⇄川平 8.2* 13分 ⇄海ノ口駅 9.9* 15分 ⇄海尻 13.0* 20分
(2)中学校周辺	◆地域住民との関わりが多い ◆全村でのスクールバス通学 ◆造成により千曲川添い集落の避難場所	◆土砂災害警戒区域(急傾斜地) 【土砂災害特別警戒区域を含む】 ◆河川浸水想定区域	◆造成費用 9億円 造成工事 8億円 用地購入費 0.5億円 補償移転費 0.3億円 その他費用 0.2億円	◆山あいであり、穏やかな気候 ◆駅・村役場・郵便局が近い ◆教職員・佐久市から通勤可能 ↓ 幅広い年齢層の教師を揃えやすい ◆地域部活動へ連携し易い	◆敷地が狭い ◆北・東・西側が山林のため、造成必要 ◆高低差がある変形地形 ◆屋内スケート場が遠い ◆統合までに時間がかかる	中学⇄平沢 17.0* 26分 ⇄野辺山駅 10.5* 16分 ⇄板橋 7.8* 12分 ⇄市場 4.9* 8分 ⇄広瀬 5.1* 8分 ⇄川平 6.6* 10分 ⇄海ノ口駅 0.8* 2分 ⇄海尻 4.0* 6分
(3)その他適切な場所						